

# NEWS

JAAF  
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース  
一般財団法人 広島陸上競技協会

第76号

H26.03.13発行



28回の歴史  
に幕!!

## さらばなら 中国女子駅伝

中国女子駅伝  
競走大会

主催

広島陸上競技協会  
中国放送  
中国新聞社

後援

広島県・広島県教育委員会  
広島市・広島市教育委員会  
中国陸上競技協会  
広島県体育協会  
広島県高等学校体育連盟  
中国四国学生陸上競技連盟  
久保スポーツ振興基金

協賛

Coca-Cola  
コカ・コーラウエスト株式会社

28年にわたり  
ありがとう  
ございました  
中国女子駅伝競走大会

# 「華やかに」「楽しく」合言葉に、幕閉じる 第28回中国女子駅伝

本日のイベント  
を掲載!  
明日の朝刊  
を

中国女子駅伝が使命を終えた。2014年2月9日、広島市西区のコカ・コーラウエスト広島スタジアムを発着点とし、商工センターを周回する5区間、21.0975kmの最後のレースに集った一般28、郡市20の計48チームにとって、第28回大会が文字通り「ラストラン」となった。広島地方の女子長距離ランナーの温床となった大会は、コース内の道路新設に伴い今後の運営見通しが困難となり、幕を閉じた。

\*

最後を飾るにふさわしい白熱した展開が繰り広げられた。終始主導権を握ったのは郡市の部の東広島市陸協だった。1区で浅田琴音(世羅高)が好ダッシュを見せた。一般の部の有力チームを引き離れた。2位北九州市立高に9秒先着。本命視されたエディオンは4位と出遅れた。

東広島市陸協は2区以降も総合トップの座を譲らない。エディオンが浮上したものの、3区を終えた時点で34秒差。一般勢唯一の実業団チームに暗雲が漂った。

エディオンはそれでも簡単には引き下らない。最終5区に控えたエース渡辺裕子が序盤からハイペースを貫いた。4.875kmと短い距離ながら、13年北海道マラソン女子優勝の渡辺は難なく首位をとらえた。次第に後続を遠ざけて3年連続11度目の優勝を飾った。一般の部2位は玉川大、3位は北九州市立高だった。郡市の部は前半から大きくリードを広げた東広島市陸協が、一度もトップを譲ることなく2年ぶり6度目の栄冠を握った。広島市陸協Aが2位、同Bが3位を占めた。

\*

惜別の思いを込めて、最後の走者がゴールに飛び込んだ。郡市の部20位の大竹市陸協・富田幸恵。市制60周年を記念して19年ぶりにチームを結成、2度目の女子駅伝挑戦だった。苦戦は覚悟の上、5区で繰上げ出発を余儀なくされたものの元気に走り抜いた。一際大きな拍手を浴びてのゴールインとなった。

ラストランナーのフィニッシュを見届けた役員たちは、誰いともなく「お疲れ様」。落伍者も事故もなく無事に幕を下ろせたフィナーレに、安どの表情が広がった。そろいのウィンドブレーカーの女性役員たち。「女性による、女性のための、女性のレース」というのが、この大会の趣旨でもあった。

広島アジア大会(1994年)、ひろしま国体(96年)を控えて、広島陸協は女性の競技役員拡充の方針を掲げた。女性競技役員の手による中国女子駅伝の大会運営もその一環だった。第5回大会(91年)から大会総務、審判長、中継所主任などすべての役職を女性が担う。「華やかに」「気配り」と、ソフトな対応。各地の女子レース運営の先駆けともなった。

\*

中国女子駅伝は1986年11月に始まった。83年開始の全国都道府県対抗女子駅伝への強化策として位置づけた。第1回大会は、3回目の広島県高校女子駅伝に併設して実施した、商工センター内を周回する5区間、20km。とはいえ、大会のメインは高校女子駅伝。初代チャンピオン(かもめ)は鈴峯高の現役高校や中学生、卒業生らで編成した寄せ集めチームだった。1区難波紀江は東女体大4年生、2区森脇和恵は鈴峯中2年だった。同時実施の高校女子駅伝1位(鈴峯)のタイム1時間9分26秒に比べ、かもめは1時間11分1秒。実力差は歴然とした。

第2回(88年)から大会は独立し2月に定着、一般・郡市の2部制となった。福岡県の実業団、東陶クラブ(現TOTO)が優勝を飾る。三村清登監督は広島・可部高出身とあって「故郷に錦を飾った」。2年後、広島に誕生した女子実業団ダイイチ(現エディオン)監督に就任する。

2回大会で郡市1区の区間賞を獲得したのが世羅体協・麓みどり(世羅高)。後にダイイチへ進み、三村監督の下でハーフマラソン日本最高を記録、93年世界選手権代表選手(故障で出場辞退)になるなど、女子長距離の第一人者に成長する麓。高校2年での駅伝デビュー戦だった。

大会は以後、順調に年輪を重ねた。中国放送がテレビ中継し、女子ランナーの勇姿を電波に乗せた。実業団に加え、長距離強化を目指す各地の大学チームも加わった。名城大、玉川大、佛教大、大阪学院大、広経大…。九州からは有力高校チームの参入も相次いだ。

中国地方の女子実業団トップの座を巡って天満屋とデオデオが激しく火花を散らし合った。会場の商工センター内に店舗を構える岡山の天満屋は山口

衛里、坂本直子ら五輪ランナーが意地を見せた。地元デオデオも3000m日本記録を持つ原万里子や釜山アジア大会代表の小島田貴子らが譲らない。優勝回数はエディオンの11度に対し、天満屋は4度。両者の競り合いは中国女子駅伝の歴史でもあった。

高校2年ながら豊かなスピードを見つけたのは岡山・興譲館高の新谷仁美だ。2005年の19回大会2区5kmを15分48秒の区間新記録で駆け抜けた。この年暮れの全国高校女子駅伝では3年連続1区区間賞を獲得した逸材。後年のロンドン五輪代表、モスクワ世界選手権5位(10000m)に恥じない快走は、沿道に強烈な印象を残した。

\*

2月10日前後に毎年実施されてきた中国女子駅伝は閉幕した。広島市臨海部の東西を結ぶ広島南道路の有料道路(高速3号線)商工センターランプの14年3月末完成に伴い、今後の交通規制の兼ね合いなどからコース維持は困難となった。代替コースへの変更も難しく、広島陸協と中国新聞社は大会継続断念を決意せざるを得なかった。

京都府京田辺市に住むかつてのヒロイン、麓(現姓清水)みどりは「一際思い入れのある駅伝だった」と懐かしむ。実業団入りを決めたレースであり、トップランナーへ飛躍するステップでもあったからだ。「デオデオのチームメイトたちと『地元広島である、この大会だけは負けられない』と話し合っていた。テレビ中継もあったので、一層意気込んだ。ブランクを越え、16回大会(2002年)まで出場しただけに感慨がこもる。

麓だけではない。愛着を持つ多くの人々がいる。毎年エントリーし続けた安芸陸協などの郡市ランナーや、走る喜びを体現した広島壮年走ろう会のシニア選手、広大レディースは先輩から後輩へタスキをつなぎ続けた。「大会が消えてしまうのは悲しい。いつか、どこかで駅伝の復活を」。女性ランナーたちの願いであろう。

(W)



麓みどり選手(デオデオ)



吉本ひかり選手(仏教大)



田村瞳選手(仏教大)

## 過去10年の優勝チーム

年	一般		郡市	
	一般	高才	郡市	協協
2004年	興譲館	岡山	広島市	協協A
2005年	興譲館	岡山	広島市	協協A
2006年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2007年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2008年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2009年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2010年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2011年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2012年	譲譲館	岡山	広島市	協協A
2013年	譲譲館	岡山	広島市	協協A

※デオデオは現エディオン



## 第58回 全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝2014)

第58回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝2014)が、群馬県で2014年元旦に行われ、広島県から中国電力、JFEスチール、マツダ、中電工の4チームが出場した。前回5位入賞の中国電力は序盤こそ20位台と苦しんだが、第3区・石川卓哉選手以降の選手が着実に順位を上げ、5位を確保した。昨年20位のJFEスチールは、序盤の出遅れがひびき、28位と前回より順位を下げ、昨年25位に沈んだマツダは、6区を終えた時点で11位と入賞を狙える順位であったが、アンカーで順位を守りきることができず、29位でのゴールとなった。中電工は20位台への飛躍が期待されたが、前回より一つ順位を上げるにとどまり、35位でのゴールとなった。なお、優勝はコニカミノルタ、第2位はトヨタ自動車九州と2年連続で同じ顔ぶれであった。

マツダ株式会社 政 泰治



## 男子 第64回 / 女子 第25回 全国高等学校駅伝競走大会を終えて 2013.12.22 in 京都

男子

年末に行われた全国高校駅伝では多くの温かいご声援ありがとうございました。私たち男子陸上競技部は、昨年度の全国高校駅伝で5位入賞に終わり、チームの目標であった「全国制覇」を達成することができませんでした。今年はその悔しい思いを胸にこの一年間再び「全国制覇」を目指し、練習に取り組んできました。今年のチームは部員のほとんどが記録会などで自己ベストを更新し、チームの総合力が高く自信を持って大会に挑むことができました。また、ミーティングを開きチームの改善点などを話し合い、日本一のチームを目指し頑張ってきました。全国高校駅伝では代表である7人の選手はそれぞれの持っている力を出し切り、全力を尽くしました。またその他の部員もしっかりとサポートしてくれ、チーム一丸となって戦いました。しかし結果は4位で1位とわずか6秒差であと一步の所で目標であった「全国制覇」を逃してしまいました。大会後はとても悔しくて涙が止まりませんでした。なぜあと一步の所で負けてしまったのか、その原因は練習や走力ではなく普段の生活でした。一年間振り返れば寮生活などの生活面で何度か同じことを注意されることが多く、基本となる生活面で自分たちの弱さや甘さがありました。そういったことが積み重なり、「4位入賞」という結果になったのだと思います。私たちがこのように目標に向かって練習、生活がきているのはたくさんのご支援、ご声援をしてくださっている多くの方々のご協力あってのことです。いつも温かいご声援、ご支援をしてくださる地域の方々、私たちをいつも応援してくださる学校の先生方・クラスメイト、苦しい時、辛い時に支えてくれた家族、忙し中私たちのために毎日ご指導してくださった岩本監督やコーチ・スタッフの方々。このように世羅高校陸上競技部は多くの方々の支えがあり、恵まれた環境で努力することができます。私たちが恵まれた環境であることに感謝の気持ちを忘れず、これからも練習、生活をしていこうと思います。「やってもらって当たり前」ではなく、恵まれた環境であることに感謝の気持ちを持つ。これが私たちに不足していると思います。「感謝の気持ちを持つ」これを私は後輩たちに特に伝えていきたいと思えます。3年間世羅高校の陸上競技部に入部し、多くの経験をさせてもらいました。苦しく辛い時もありましたが、その分充実した3年間を送ることができ、また、この一年間主将という立場になったことで私を成長させてくれました。最後に今大会での悔しさ、そして見つけた課題を克服し、私たちが達成できなかった「全国制覇」を後輩たちが成し遂げてくれると思います。目標に向かいまた一年間精一杯頑張りますので、これからの世羅高校陸上競技部へのご支援・ご声援どうかよろしくお願い致します。



広島県立世羅高等学校 3年 城西 廣

女子

私たちはこの1年間、全国高校駅伝10位入賞を目標に練習に励んできました。昨年度の結果は33位。チームとしての力を発揮しきれず悔しい思いをしました。3年生となり、この悔しさを晴らすため、チームを引っ張り強しようとして決めていました。しかし、実際に新チームがスタートすると、トラブルを起こしてしまったり、練習に出る3年生が私1人になったりといろんなことがあり思うようにはいかず、強くなるどころか私がチームの足を引っ張っている状態でした。心に余裕もなく、主将であることを重荷に感じていた時、支えてくれたのはチームのみならず、1・2年生が自分たちでしっかりととどまり、チームの雰囲気を盛り上げてくれました。無理に引っ張ろうとするのではなく、自分ができることをして下からみんなを支えていこう、そう気持ち切り替えられたのはみんなのお蔭だと思います。春夏のトラック、秋の駅伝で順調に実力をつけ、臨んだ冬の全国高校駅伝は、1・2年生だけのメンバーでチーム最高タイムで12位という結果を残しました。走った5人だけでなく、部員全員が全力を尽くした結果です。このチームで頑張れたことを誇りに思いました。また、沿道では多くの方が応援してくださいました。いつも私たちを支えてくださる地域の皆様、保護者の皆様、監督やコーチ、スタッフの先生方、たくさんの方々のお蔭で、私たちは結果を残すことができました。本当にありがとうございました。私は1・2年の時にこの駅伝を走らせてもらい、その度に悔しい思いをしました。最後の年、私は走ることができませんでしたが、もっと大きな喜びを後輩たちが与えてくれました。苦しいこともありましたが、ここの生活は私を大きく成長させてくれました。4月から新1年生が加入します。後輩たちには、今回の結果に満足せず、更に上を目指し、強いチームになって欲しいと願います。いつも見守り、支えてくれた人たちがいることを忘れず、走れることに感謝の心を持って頑張っていきたいです。最後になりましたが、これからも世羅高等学校女子陸上競技部への御支援、御声援をよろしくお願い致します。



広島県立世羅高等学校 3年 下花 史佳

## 第21回 全国中学校駅伝大会を終えて

2013.12.15 in 山口

### 全国中学校駅伝大会を終えて

昨年度、県大会での連覇を目指しましたが県大会で敗れ出場することができませんでした。この1年は、2度目の全国大会出場に向け先輩方、保護者、地域の方々、学校の先生方の応援、協力のもと練習に取り組み出場権を獲得することができました。本年度は2年前の結果を上回ることをチームの目標に掲げ大会に臨みました。結果は11位で目標を達成することはできませんでしたが、選手は本当に頑張ったと思います。しかし、この結果には主将がチームのために足の痛みを耐え走りぬく、他の選手がその思いを感じて走りぬいた結果でした。選手たちは悔しい思いがあったと思います。チームを思う気持ちの大切さをこれからチームへ受け継ぎ次なる目標に向け頑張っていきたいと思えます。最後に指導者として考えさせられた、また反省することの多かった大会となりました。応援ありがとうございました。

東広島市立高屋中学校 監督 平賀 廣



### 楽しく走れた全国中学校駅伝大会

この度、全国中学校駅伝大会に出場させていただきました八本松中学校陸上部です。私たちは、全国駅伝の出場校を決める大会で2連覇することができました。その後、全国駅伝に向けて、今まで以上にチームで一致団結し、練習を頑張ってきました。また、チームの目標は、去年も出場させていただき、11位という成績を残すことができたので、その順位を上回る10位以内に入ることでした。全国駅伝当日、とても良い雰囲気でもみんないつも通り、リラックスしていました。そして、みんなで協力した結果、9位なることができました。チームの目標を達成することができ、愉しんで走ることができたと思います。この大会を通し、よりチームの絆が深まった気がしたので、とても良い思い出になりました。全国駅伝に出場させてもらうことができたのは、たくさんの方々に支えられたからだと思います。だから、その感謝の気持ちを忘れず、これからは3年生が引退しますが、2年生と1年生が全国駅伝で経験したことを生かし、新チームで頑張っていってほしいです。本当にありがとうございました。

東広島市立八本松中学校 3年 向井 優花



年代別レポート

小体連

1月24日、春の選抜高校野球の出場校が発表され、広島新庄高校が春夏を通じて初の甲子園出場を決めた。雪国のハンディを乗り越え、県北勢初甲子園という快挙に地元期待は大きく膨らんでいる。実は、この新庄高校の中心選手、四番センターの阪垣和也君は、今から5年前、第24回全国小学生陸上競技交流大会に出場している。男子4×100mリレーの広島県代表、広島ジュニアオリンピッククラブのアンカーを務めた。当時から、野球のクラブにも入り、野球と陸上の両方で活躍していた。「走るのが好き」そして「走り鍛えることは野球にも生かせる」との思いから、広島ジュニアオリンピッククラブに入った。写真は、国立競技場での一コマである。他のメンバーは、今も陸上競技を続け、来年のインターハイ(陸上競技)出場を目指し冬季練習に励んでいる。小学校時代に陸上競技で活躍した選手が他のスポーツで活躍することは珍しくない。陸上競技に携わっている者としては、陸上競技を続けて欲しいという思いもある。しかし、陸上競技をしたことが、甲子園出場の一助になったのならばうれしい。これからも目標を持ち、努力する子どもたちを、若者たちを応援したい。



右端より 阪垣和也くん、角田祥基くん(現 神田旭高校)、大津優音くん(現 井口高校)、田川日々紀くん(現 井口高校) 海田小学校 石川 和明

中体連

この冬に行われた強化合宿を紹介する。新年すぐに始まるのが「広島県中学・高校合同合宿」である。1月4日から



2月14日から2回、それぞれ2泊3日で開催された。国体少年の部の強化を柱に中高互いに刺激し合って質の高い練習が行われた。また、昨年12月26日から「日本陸連U-16中国ブロックジュニア研修合宿」が広島スタジアムであった。この合宿は今年度から全国で始まった新しい事業だ。中国5県から選手と引率指導者が集まり2泊3日親睦を図りながら良い雰囲気合宿が進んだ。他県に比べて広島県の選手に元気がない(声が出ていない)のが気になった。今年の中国大会での再会が楽しみだ。最後に長距離陣は12月25日から山口県セムナーパークで2泊3日の強化合宿を行った。全中駅伝であるこの会場で、今年の全国駅伝を想像しながら走った選手も多かったと思う。まもなく今シーズンがはじまります。合宿で得た力が存分に発揮されることを望んでいる。

広島県中体連 陸上競技部 専門委員長 濱村 祥水

高体連



本年度も1月4日(土)～6日(月)に広島スタジアムで広島県ジュニア中高合同合宿が開催された。この合宿は、現男子100m日本記録保持者の伊東浩司先生(甲南大学)にアドバイザーとして指導をいただいた。初日から山縣亮太選手(慶徳義塾大)も選手の激励に来てくれた。参加した中高生は憧れの選手からアドバイスをもらい、厳しい練習に取り組んでいた。また、伊東先生が山縣選手のスタート練習を指導される場面があり、レベルの高い技術指導を食い入るようになっていた中高生も多数いた。高校生にとって長崎国体へ向けた、平成26年のよいスタートが切れた。

広島県高等学校体育連盟陸上競技部競技向上委員長 広島県立広島皆実高等学校 樋口 裕志

学生連盟

学連の仕事からの学び

一年間学連の仕事をして思ったことは、とにかく忙しく大変だったということだ。プログラムなどの作成において期限を守ること、先生方が出席される会議に参加すること、大会での運営など他大学の幹事の方々と協力してこの一年間誠心誠意つとめた。辛いとき逃げたいと思うこともたくさんあったが、こまかで無事やり遂げることができた。先生方



には、たくさん迷惑をかけてしまったことをこの場を借りて深くお詫びしたい。この一年間学連を通して学んだことは、たくさんありすぎてまとめきれないが、一番に書きたいことは、責任感を持つということ、裏で大会を支えてくださる方々の重要さを知ることができたことだ。実際にやってみて役員の方々、東川先生、三宅先生、他の先生方には、困ったとき常に助けていただき、本当に感謝しきれない。この一年間学連を通して学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと考えている。一年間本当にありがとうございました。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部 幹事長 広島修道大学 中川 瞬

実業団連盟

第77回中国山口駅伝競走大会

第77回中国山口駅伝競走大会が2014年1月26日に開催され、一般・郡市・高校の49チームが出場し、山口県防長路(宇布市→周南市・7区間84.4km)で競い合った。優勝はマツダで、3区のA・アイエ選手が首位に立ち、6区の難所・椿峠でJFEスチールに首位を譲ったが、アンカー山本憲二選手がラストで逆転し、2年ぶり3度目の優勝となるゴールテープを切った。前回優勝の中国電力は、若手中心のオーダーで臨み、後半区間の3選手が区間賞を獲得する追い上げを見せたが、3位にとどまった。上位は実業団勢が独占した形になったが、大牟田・西京・倉敷の高校勢がデッドヒートを繰り広げ、一般・郡市・高校が同時に競う中国山口駅伝ならではの盛り上がりを見せた大会となった。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局 JFEスチール 山下 里恵



マスターズ連盟

去る2月16日に行われた広島マスターズ陸上競技連盟の総会では理事の若返りと3名の女性理事が加わって新体制を築き、平成26年度の運営方針をもとに新たにスタートした。新しく会長に就任された宮本武利さん、新理事長の波多さん共々、会員の皆さんとコミュニケーションを密に会員の拡大を図り、とりわけ大会等には積極的に参加して頂くよう呼びかけ、活気ある大会の実現を目指している。今年も道後山クロカンコースでは4月20日に中国マスターズクロスカントリー大会、そして5月25日は広島マスターズの最大イベントとして尾道びんご運動公園で広島県選手権大会を開催する。生涯スポーツとして、陸上競技の愛好者の仲間を増やし、「明るく」「楽しく」をモットーに活動の輪を広げていきたい。広島陸協関係者のみなさん、今年度も広島マスターズ陸上を宜しくお願いいたします。

広島マスターズ陸上 広報 福留 征二

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- 株式会社サタケ
- 旭化成株式会社
- 広島総合警備保障株式会社
- 株式会社体育社
- 広島駅弁当株式会社
- 広島電鉄株式会社
- 有限会社ニシヒロ
- 株式会社中国電力
- 株式会社広島銀行
- 学校法人石田学園
- アシックス販売株式会社
- 株式会社イヅミ
- 広島ガス株式会社
- 株式会社中電工
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社イヅミ
- 株式会社中もみじ銀行
- ひば・道後山高原荘

(順不同)

注意

「投げます!」  
投げる物から目を離さず通行ください

声かけ 確認 お願いします

安全で楽しい陸上競技活動のために

投擲競技は現役の競技寿命が長く、ハンマー投げ・槍投げでは世界で戦える投擲競技ですが、その選手育成を考えるに当たり、安全を確保することは必須です。このたび、より安全な投擲練習の環境を作るために「投げます!」の幟旗を県内の高体連所属のほとんどの高校に配布できたことを紹介します。昨年度全国や広島県内において投擲練習中に重大事故が起こりました。投擲競技の強化や普及を図る指導者として、どのようにしたら事故が0(ゼロ)になるのだろうと考えていました。投擲練習には場所の確保が必要です。技術習得に時間がかかるだけでなく、安全の確保については最重要課題です。また、投擲はそのスタイルとして後ろ向きになってスタートするものが多く直前の前方の確認が本人はできません。また、50~70m向こうまでの飛ぶ間の数秒間、周りの人の注意が欠落しやすいことも多くの事故を引き起こす原因となっています。そこで、練習中「常にまわりに注意を喚起できるものはないか」、「一目で投擲練習をしていることがわかるものはないか」と考えていました。そんな中、街中に見る幟旗にヒントを得て、県の高体連委員長である大林先生に幟旗のレイアウトを持ってお願いしました。すると早々に動いてくださり、すぐ総会の提案議題となり実現することができました。現在、各学校の練習時間だけでなく県内の大会時や陸上教室などでも使用されています。重大事故を防ぐための対策になればと願っています。

広島県立三津田高等学校 原野 みどり